

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

302号

2016年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

米国は韓米合同軍事演習を中止し、平和協定を締結しろ

●人工衛星？ミサイル？

2月7日、朝鮮中央通信は宇宙開発局の発表として地球観測衛星「光明星4号」を軌道に進入させるのに成功したと報じた。報道によると、「光明星4号」は国家宇宙開発5カ年計画によって新たに研究開発した地球観測衛星であり、2012年の打ち上げに続き、国際電気通信連合などの国際機関への事前通知のうえ打ち上げられた。

CNNの報道によると、米国防当局の高官は「軌道上で回転しつつけている」ために運用不能との見方を示したが、暗に人工衛星であると認めた格好となった。韓国国防部にいたっては「北朝鮮長距離ミサイル技術分析結果」を発表しながら、「光明星4号」が衛星軌道に進入したとして人工衛星であることを認めている。

●「ミサイル」と喧伝し、

緊張を高める韓米日

宇宙法をはじめ国際法において人工衛星の打ち上げや宇宙空間の平和利用は、どの国も有している権利である。しかし、韓国・日本・米国3ヶ国は「大陸間弾道ミサイル発射」と喧伝し、「国連安保理の決議違反」を根拠に北朝鮮に対する「制裁」を声高に叫んでいる。

世界最大の大陸間弾道ミサイル保有国の米国、打ち上げ成功率世界一の国産ロケットを保有する日本、韓米ミサイル指針の見直しの後、新型ミサイルの実験を繰り返す韓国—この3ヶ国が「国連安保理決議違反」を錦の御旗に「制裁」を叫ぶのは盗人猛々しい主張と言わざるをえない。まさに米国による「大国の論理」でしかない。

●平和を脅かす韓米日軍事同盟の強化

北朝鮮の人工衛星発射直後から、米国は核心戦力であるB52戦略爆撃機、B2ステルス爆撃機、

原子力潜水艦、原子力航空母艦、F22ステルス戦闘機など相次いで韓国に投入した。朴槿恵大統領は9日に相次いだ米・日両首脳との電話会談を契機に超強硬論に旋回し、ついには開城工業団地の操業を中断した。韓国内では「開城工団中断の原因は、北朝鮮の“ミサイル”ではなく、米日両首脳との電話会談」と揶揄されている。

また韓米日ミサイル防衛(MD)体制の一翼を担う「高高度防衛ミサイル(THAAD=サード)」を韓国に配備するための協議を開始すると

発表した。サード配備は韓米日MD体制を構築し、3ヶ国の軍事同盟を深めるものだ。

昨年未、米国主導のもと韓日で日本軍「慰安婦」問題をめぐり外相会談合意がなされたが、その目的の大きな一つが韓米日MD体制構築による3ヶ国の軍事同盟強化であったことは疑う余地がない。



▲韓米合同軍事演習中止を訴える韓国民衆

●韓米合同軍事演習を中止し、平和協定締結を！

このような中、韓米両国は3月7日から合同軍事演習「キー・リゾルブ」「フォール・イーグル」を行う。今回の演習には、前述の米軍兵力をはじめ例年の2倍の米軍兵力が参加することになっており、一触即発の状態が予想されている。

朝鮮半島における平和体制の構築は「制裁」「圧力」などと軍事的な緊張を高めることでは決して実現されない。朝米間で現在の停戦協定ではなく、平和協定に合意・締結してこそ、朝鮮半島の平和体制を保障することができる。米国は軍事演習を即刻中止し、軍事緊張を高める政策を撤回し、無条件に平和協定締結に向けた対話のテーブルにつかなければならない。(鉄)

活発な討論を通じ

2016年運動方針などを確認する

韓統連第15期第1次中央委員会

韓統連第15期第1次中央委員会が2月21日(日)韓国YMCA(東京都)で開かれ、韓統連大阪本部をはじめ全国の仲間が参加した。



▲挨拶を行う孫亨根韓統連中央本部議長

中央委員会では孫亨根(ソン・ヒョンゴン)韓統連中央本部議長が挨拶を通じ「昨年末の韓日外相による日本軍“慰安婦”問題をめぐる合意をはじめ現在、朝鮮半島情勢は激動している」と述べながら、「こうした情勢のもと、どのように対応して運動を推し進めるか真摯な討論を通じて、確認していこう」と語った。

次に▲維新独裁を復活させた朴政権を退陣させよう▲第2の6・15時代をきり開こう▲米国は北朝鮮に対する敵視政策を撤回しろなど6項目の運動総括案が提案され、質疑討論を経て採択された。

続いて▲政策のすべてが破綻した朴槿恵・セヌリ党政権を退陣させよう▲反米・反戦平和運動を展開し、朝米平和協定を締結させようなど5項目からなる2016年度運動方針案と上半期事業計画案が提案され、活発な討論を経て採択された。あわせて特別決議文「米国は韓米合同軍事演習を中止し、平和協定締結のための対話に乗り出せ」が採択された。

そして、各団体代表から決意表明が行われ、最後に全体でスローガンを唱和し、中央委員会は終了した。その後、同会場で団結の集いが開かれ、参加者間の親睦と交流、2016年度運動方針を力強く展開することを確認した。

朝鮮半島の軍事緊張を極度に高める

韓米合同軍事演習を中止せよ

駐日米国大使館抗議行動

韓米合同軍事演習「キー・リゾルブ」「フォール・イーグル」が3月7日から実施されると発表されたが、これに対して韓統連は2月22日(月)、駐日米国大使館前で軍事演習の即時中止を求める抗議行動を行った。



▲駐日米国大使館前でスローガンを叫ぶ抗議団

参加者ら30余人は米国大使館前で横断幕とプラカードを掲げ、▲韓米合同軍事演習「キー・リゾルブ」「フォール・イーグル」の中止▲対北敵視政策の放棄と朝鮮半島と東アジアの緊張激化策動の中止▲平和協定締結のための北朝鮮との対話に乗り出せなどのスローガンを叫んだ後、孫亨根(ソン・ヒョンゴン)韓統連中央本部議長が要請書を米大使館に向かって朗読した。

要請書では、北朝鮮を標的にした「作戦計画5015」に沿って核兵器を動員して展開される大規模な韓米合同軍事演習は、朝鮮半島の軍事緊張を極度に高め、一触即発の危機を引き起こしかねないと指摘するとともに、朝鮮半島の平和実現のためには停戦協定を平和協定に転換することが急がれると主張。北朝鮮は「軍事演習中止・核実験中止」の同時履行提案など対話の門戸を開いているとして、対話の推進だけが朝米関係改善の道であると強調した。

米国政府に対する要請書は、孫亨根議長が米国大使館のユ・ドニー一等書記官に手渡した。ユ氏は「必ず米国政府に伝達する」と約束した。

不正選挙で誕生した 朴槿恵政権の3年間を問う 韓統連生野支部2016連続セミナー

4月に韓国国会議員選挙が行われる中、韓統連生野支部主催で「生野支部2016連続セミナー第1回 朴槿恵政権とセヌリ党の3年間を問う」が2月14日(日)、韓統連生野支部で開かれた。

セミナーでは、金昌秀(キム・チャンス) 韓統連生野支部代表委員が主催者挨拶を行った後、金昌範(キム・チャノム) 生野支部副代表委員が情勢報告を行った。



▲セミナーでは朴政権の3年間について活発を行う

金副代表委員は、朴槿恵政権の誕生から現在までの主な情勢を報告しながら、「朴槿恵大統領は、国家情報院を中心にした不正選挙によって当選した」と指摘するとともに、「大統領選挙の際に掲げた公約①分配重視②雇用創出③福祉充実は何一つ実現されていなく、逆に▲セウォル号惨事で表れた無責任性、▲北朝鮮の水爆実験などを利用した南北の軍事緊張を煽る姿勢など、どれも反民族・反民衆的政策をとり続けている」と語った。

そして、4月の国会議員選挙で朴槿恵政権=セヌリ党を審判するためには「民衆に依拠した政治勢力の結成と、院内外を通じた反朴槿恵=反セヌリ党の闘いが重要だ」と述べ、「そのような意味で2月13日に創党準備委員会が発足した、民衆政治連合(2月27日に民衆連合党として正式に創党)の役割に期待することができる」と語った。

報告終了後は、活発な質疑応答と討論が行われ、セミナーは終了した。

日韓民衆連帯運動で朝鮮半島 東アジアの平和を実現しよう 日韓平和連帯結成の集い

大阪における東アジアの平和実現に向けた恒常的組織として「戦争法の廃止と朝米平和協定の締結で東アジアの平和を実現しよう! 日韓平和連帯結成のつどい」が2月23日(火)、エルおおさか(大阪府中央区)で開かれた。

集いでは、日韓平和連帯共同代表の山元一英さんが主催者挨拶を行った後、日韓平和連帯事務局長の垣沼陽輔さんが経過報告と役員人事を提案して確認され、続いて、韓国ゲストとして招請した戦争反対平和実現国民行動共同代表の韓忠穆(ハン・チュンモク)さんが記念講演を行った。



▲朝鮮半島情勢について講演する韓忠穆さん

韓さんは講演で「韓国では3月7日から大規模な韓米合同軍事演習が実施され、演習中、米軍の核兵器搭載可能な様々な兵器が投入され、朝鮮半島の軍事的緊張が一気に高まる」と危険性を指摘するとともに、「米国は北朝鮮の水爆実験などを利用して、韓国に對中国・ロシアを念頭に置いたサード(高高度ミサイル防衛システム)の配備を進めている」とし、「サードが配備されれば、韓国は中国からの経済的報復などを受ける可能性が高い」として、サードの配備を強く批判した。そして「現情勢は、韓米日対朝中ロという東アジアにおける新冷戦状況になっている」と述べながら、「新冷戦ではなく、東アジアの平和を実現するために今日、日韓平和連帯を結成したことは、非常に大きな成果だ」と語った。その後、集いでは日韓平和連帯共同代表である服部良一さんが特別報告を行い、最後に、日韓平和連帯顧問の永久睦子さんが閉会挨拶をして結成の集いは終了した。

韓青の場で民族運動をすることが私の生き甲斐です！

韓青布施支部委員長 高愛子(コ・エジャ)

2月14日(日)韓青布施支部第26回定期大会が開かれ、高愛子さんが新委員長に選出されました。高愛子新委員長に今後の抱負などを書いて頂いたので紹介します。

私が韓青布施支部に出会ったのが、2002年の5月の韓国語教室開講式でした。当時は高校1年生で既に布施支部で活動をしていた姉の紹介で行ったのが始まりでした。まだまだ世間知らずな私を支部に集っていた多くの先輩方は温かく歓迎してくれました。その日から私は布施支部の一員となり、私の韓青活動が始まりました。

高校生活であまり学校に馴染めなかった時期があった時に、布施支部に行くことで解放的になり、先輩方が話を聞いてくれたり、励ましてくれたりすることで「自分の居場所はここなんだ」と強く感じていました。

支部に長く通い続ける中で様々な出会いと別れもありました。仕事や家庭の都合などで活動を続けていくことが難しくなって組織から離れていた先輩方や身近に感じていた同志との別れも経験しました。一時は玄関に靴が溢れるほどの人数が集まっていた布施支部が、気がつけばほんの少しのメンバーだけになってしまった状況は、本当に辛く悲しい思いでいっぱいでした。「この場所に魅力がないのか？」と疑問に感じてしまうこともあったり、支部のメンバーとぶつかってしまうこともありました。それでも私が今日まで韓青の支部活動に参加し続ける理由は「支部こそが私の居場所であり、私の人生において必要不可欠な場所」だからです。

韓青大阪本部の運営が難しくなったときに、同時に布施支部の運営も難しくなり、布施支部を閉鎖する状況に陥りました。支部がなくなるということは地域の在日同胞との出会いがなくなり、繋がりが失ってしまいます。ウリマル(母国語)に触れることもできず、歴史や情勢を知る機会も持てなくなり、民族に関心を持つことから遠ざかってしまいます。支部を一つなくすということは、多くの同胞青年を失ってしまうことなのだという事に気づきました。

民族教育を満足に受けてくることができなかつ

た多くの在日同胞青年にとって、もう一度民族教育を受けることができる。その場所こそが韓青の支部なのです。必ず守っていかねばならない場所なのだと強く感じました。

韓青活動を続けていく中で、より主体者として活動をしていきたいという思いから常任委員となり、盟員の頃から比べると学習量や求められるもの、責任などが格段に増え、心と体が一致せず、活動の場に出ることがしんどいと感じる時期もありました。閉鎖的な日本社会で暮らしていると生き辛さを感じることもたくさんあります。少しでも

活動から離れてしまうと「自分自身なんのために生きているのか？」と疑問に感じ、この社会で生きていくことが辛いと感じていた時期もありましたが、やはり自分にとっての居場所は布施支部の空間なのだと改めて感じました。

「知識は景色を変える」という言葉があるように、韓青

活動をすることにより、多くの知識を得ることができ、朝鮮人として生きている今、祖国の情勢の変化に悩み、苦しみ、怒り、喜ぶことができるようになりました。この運動を続けていくというのは簡単なことではありません。多くのことを学習しなければならないし、求められるものも多く出てきますが、私にとって在日同胞が民族運動をすることは至極当然のことであり、民族運動をしない方が人生を犠牲にしているように考えています。

生きる目的を失うほど悲しいものはありません。この韓青の場で民族運動をすることが私の生き甲斐であり、布施支部に多くの在日同胞青年を集めることが私の責任であり、使命であると考えています。

布施支部の発展が韓青大阪本部の発展となり、韓青大阪本部の発展が韓青全国の発展となることで、全同胞社会の発展に繋がっていくと信じています。この思いを決して忘れることなく、今後も精一杯努力していきます。



▲委員長就任挨拶を行う高愛子さん

東日本大震災から5年を迎えて

申孝信(シン・ヒョシン)

2011年3月に発生した東日本大震災から5年が経過しました。今回、仙台に在住しています申孝信さんから、復興に向けた現状と課題などについて書いて頂きましたので、紹介します。

東日本大震災から5年目を迎えるにあたり、これまでお寄せ頂いた支援に心から感謝申し上げます。

被災した東北各県では日夜、復興に向けた取り組みが続けられていますが。その主な内容は①海岸部の防潮堤建設、②住居等の高台移転(集団移転)③津波に被災した市街地のかさ上げなどがあります。それぞれの被災地の個別事情等はありませんが、これが主な3大復興事業と言えます。しかし、復興のための問題点も、ほぼこの3大事業に集約されています。

①防潮堤の建設：今後予想される津波に耐え得る高さ(4mから10m超)のコンクリート製防潮堤を海岸に沿って造るものです。しかし被災した浜に何世代も住み、海を生活の場にしてきた漁師さんからは「海が見えなくなり、却って不安だ」という声もあり、高さを低くするよう設計変更を求めているところもあります。三陸の漁師さんは「地震の後には津波は来るもの」という思いを持っていますので、巨大な防潮堤を造るよりも「津波が発生した時に、スムーズに高台へ避難できるインフラを整備した方が、自然に優しい復興ができるのではないか」という意見も根強くあります。

②住居等の高台(内陸部)移転：各被災地では、沿岸部の住居を全て高台や内陸部に「強制移転」させるということがあります。このため住民の気持ちは大きく揺らいでいます。生まれ育った場所に戻れなくとも戻れないという喪失感や、住宅再建の経済的な負担という様々な問題が派生しています。結果、住み慣れた土地を離れ都市部に移住する住民も多く、どこの被災地でも急激な人口減少に悩まされています。

③市街地の嵩上げ：三陸地方はリアス式海岸と呼ばれ、深い入り江と山が海岸まで迫り、もともと

と平地の少ないのが特徴です。そのため将来、津波に耐えられる市街地を造成するために周囲の山を切り崩し、住居地の造成と同時に市街地全体を4mから8m位の嵩上げを進め、災害(津波)に強い新しい市街地を造ろうとしています。しかし、もともと被災地の多くは高齢化と人口の減少が進んでいる所であり、震災前のような賑わいを取り戻せるかが懸念されています。

この他に決して忘れてならないことは、福島第1原発事故です。原発事故は現在進行形であり、「収束」どころか事故で発生した低レベル放射線

汚染物の貯蔵・処理などを東北3県に押しつけようとしているのを見て、後始末は何一つ解決していないのです。

しかし、被災地の人々はめげなどいません。夢も希望もあります。例えば私が通っている女川町では、震災を経験した中・高校生たちが震災の経験を後世の人々に伝えようと「津波

が来たら、この石碑より高台に避難して」と呼びかける「女川いのちの石碑」を造り、町内の津波が到達した21ヶ所(現在10ヶ所に設置)に建てる活動を続けています。また、ある中高年のグループは復興工事に使うために急きょ切り出された杉山を借り受け、その跡に柚子の苗木を植え、柚子と山野草の農場を拓く活動に取り組んでいます。私たちは微力ではありますが、この農場の開拓に協力し、これまでビニールハウス1棟、中古のエンジンクローラ車1台、露天五右衛門風呂などを提供しました。本年は露天五右衛門風呂の屋根と囲いの造作、ピザ兼パン焼き窯、薫製釜等を造る予定です。最近では震災関連の報道も少なくなり、人々の記憶から「過去の出来事」と思われているようにも感じますが、未だ復興は道途上にあり、今後も東北の地に少しばかりの関心を持ち続けて頂ければと思います。



▲女川町に設置された「女川いのちの石碑」

◆◆読書紹介◆◆

ディーセントワーク・ガーディアン

すべての働く人を守る労働基準監督官の奮闘

著者：沢村 凜 双葉文庫 676円

「すべての働く人を守る労働基準監督官の奮闘」。表紙に書かれていたこのキャッチコピーや書評家や書店員の推薦文に惹かれて本書を購入しました。

本書は、労働基準監督署を舞台に低賃金や長時間労働、過重ノルマやパワハラなど劣悪な労働条件や職場環境によって、辛苦の人生を送ることを強いられている労働者の人権や生命、権利や尊厳を守るために奮闘する労働基準監督官の姿を描いた小説です。

私自身も低賃金の非正規労働者なので、小説を読みながら劣悪な労働条件や職場環境によって、労働者をモノ扱いにするブラック企業の理不尽な姿勢に怒りを感じました。労働者がモノ扱いされる職場は「壊れた職場」であり、「未来なき社会」であり、安倍首相が目指している「企業が世界一活躍しやすい国」というのは「労働者が世界一モノ扱いされやすい国」だということだと読みながら感じました。

小説のタイトルになっている「ディーセントワーク」とは、「平たく言えば普通に働いて、普通

に暮らせるってことになるんじゃないかな」と述べられています。本書で印象に残っている部分は、77P～78Pの「生活費に満たないような賃金ではないこと。働き続けると病気になるような作業環境ではないこと。死んだりケガをしたりの危険に満ちていないこと。心身の健康を損なわないほどの長時間労働でないこと。人格が否定される職場ではないこと。エトセトラ」という部分です。

リストラや失業の不安がなく、人格が尊重され、経済的・精神的余裕のある人生を送れるだけの十分な賃金と余暇と福利厚生が保障されている安定した労働条件の良い仕事こそが、人間が人間らしく生きられるために必要です。

368Pで「自分の権利を知ること。それを守ろうとすること。他人の権利を知ること。それを尊重すること。一人一人のそうした努力の上に、法令が保障する権利は実現する」と訴えています。この言葉は労働問題だけでなく、差別問題や原発問題、米軍基地問題など全ての闘いに当てはまります。人間らしく働きたいと思っている人たちに読んでほしい小説です。李淳明



◆◆行事案内◆◆

<p>韓統連大阪本部「連帯のタベ」 日時：3月20日(日) 午後4時30分 受付 午後5時 開会 場所：ばだん(つるはし交流広場) (JR・地下鉄“鶴橋”駅下車徒歩7分) 内容：第1部記念講演 「朝鮮半島の自主化運動と日本」 講師：孫亨根韓統連中央本部議長 第2部懇親会 参加費：3000円 主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377</p>	<p>廃止しよう！戦争法、止めよう！辺野古新基地建設 関西集会 日時：3月27日(日) 午後1時30分 開場 午後2時 開会 場所：中之島中央公会堂 (地下鉄・京阪“淀屋橋”駅下車徒歩5分) 内容：稲嶺進さん(沖縄県名護市長)、 青木理さん(ジャーナリスト)の講演など 資料代：800円 主催：同実行委員会 TEL06-6364-0123</p>
---	--

編集後記

東日本大震災から5年が経過しました。申孝信氏の原稿を読み、復興に向けた住民の方々の苦労や努力が伝わってきました。大阪からも継続して復興に向けた支援の声を送りましょう。(ソン)